乗円寺寺報

2019年 9月
報恩講前号
寺報から訊く 寺報No23

報恩講10月4日（金）特別法話のご案内

11:20頃～詳細別紙案内参照

●親から子へ伝える仏教・真宗 ～お内仏から頂くもの～●

毎年、数回は必ず「御移徙（おわたまし）法要」をさせていただきます。この法要は、お内仏（お仏壇）を新たに購入した時や、ご本尊を新しくした時などに行われます。一般的なイメージからすれば、新しくお仏壇を買ったから、魂を入れるお参りをする、そのように思いがちですが、本来の意味は少し違っています。この法要は真宗では「入仏法要（にゅうぶつほうよう）」ともいいます。字のごとく、佛様に入っていただくお参りです。どこに入ってもらうのか。それは仏壇にただ魂として入ってもらうものでもなく、私達の生活の中に入ってもらうのだと思います。

私達の生活は、欲に溢れ、時に迷い、苦しむこともあります。そんな私達を救おうとして下さるのが佛様。そんな佛様を私達の生活に、家にお迎えするのです。亡き人へのお参りから始まることが多いですが、お内仏を求めたことを縁として、佛様の教えを聞き、その教えと共に生活を送る宣言のようなお参りが「御移徙法要」です。

お内仏は昔からある金沢仏壇（金沢の金箔を使用、蒔絵が美しいもの）や、現代仏壇と言われる木目調やコンパクトなもの、色々な種類のものがあります。（この寺報の5号においてもお内仏は以前に触れさせていただきました。）形が変わったとしても、シンプルになったとしても、必ずあるものとして、お光（蝋燭：ロウソク）・お香（線香・焼香）、仏花（仏華：ぶっか）はどのお内仏にもあります。

私も教えていただいたことですが、蝋燭の光は、佛様の智慧。お香は、お浄土の清浄さ。仏花は、お浄土に咲き誇る花。花瓶の水は、お浄土に満ちている優れた徳の水を表しています。これらはお内仏の佛様や亡くなった方に捧げるイメージがあると思いますが、私達が頂いているのです。

「仏説阿弥陀経」という御経にはお浄土に咲く蓮の花のことが触れられています。青色、黄色、赤色、白色、さまざまな色が咲き、どの色も気高く美しい。色は人間の命に例えられていて、どれもかけがえなく尊い命であると教えて下さいます。蓮の花は佛様の世界を表す象徴的な花ですが、この花はドロドロの泥水であればこそ綺麗に咲く花。困難や苦悩のある生活であっても、だからこそ綺麗に咲く蓮の花のように、生きましょうとの願いが込められています。

日々生活する中で、うまくいかないときでも、自分の気持ちが曇るときでも、人間に変わらず寄り添って下さっていたものが佛の世界で、より大きな視点で自分を見つめさせて下さるものだと思います。共にそんな場を、時を、先祖から亡き人からいただいていることに感謝し、大切にしていきましょう。

（住職）

2019年10月　報恩講日程

4日（金）

10:30～ 特別永代経
報恩講お日中
11：20～特別法話
順教寺住職　細川公英氏
「親鸞聖人のお心
恩徳讃をいただく」

12：20～ お斎（おとき）
13：00～ 報恩講　お逮夜
14：00～ 住職法話

5日（土）

9:30～ 特別永代経
10:00～ 老僧法話
10:30～ 報恩講お日中
11:30～ 住職法話
納骨堂報恩講
12：20～ お斎（おとき）

多くの職人さんのご活躍で庫裏改修工事が終了！

長い期間のご協力本当にありがとうございました。

カメラマンに撮影いただきました。ホームページに公開中
本堂・納骨堂に冷暖房も設置されました！

第一弾
乗円寺で学んで、交流して、楽しもう！
映画上映会
最高の人生の見つけ方
日時：令和元年9月23日(月)
秋のお彼岸　秋分の日
時間：午後2時～4時(映画は約90分)
参加：無料　イス有
会場：乗円寺(金沢市石引1-4-20)
映画ストーリー
仕事に人生をささげた大富豪エドワード（ジャック・ニコルソン）と、家族のために地道に働いてきたカーター（モーガン・フリーマン）は、入院先の病室で知りあった。共に余命は6か月。やりたいことをすべてやり尽くそうと決意し、無謀にも病院を脱出。"やりたいことリスト"を手に、さまざまなことに挑戦する。
© 2007 Warner Bros. Entertainment, Inc.
お寺でしか出来ない学び、お寺だから出来る良い機会・経験、お寺を通しての繋がりを増やしていこうというお仲間が企画したイベントです。
★スケジュール★合掌（手を合わせる）⇒ 映画上映 1時間 30分 ⇒ お茶対話 30分
乗円寺活用委員会 TEL076-221-3421
金沢市石引1丁目4-20（駐車場20台）
Mail：info@kanazawa-raku.jp
お問い合わせなどがありましたら、お気軽にお電話下さい！

九月二十三日(月)映画上映会開催！

「最高の人生の見つけ方」
午後2時～4時　参加無料

先日、案内を送らせていただきましたが、乗円寺で映画の上映会をすることになりました。お寺を身近に活用したいとのご意見を以前から頂いており、今回工事が終わったタイミングで、乗円寺活用委員会のメンバーが考えてくれた企画です。お寺でしか出来ない学び、お寺だから出来る良い機会・経験、お寺での繋がりを大切に活動していこうと思います。

裏面に、乗円寺の門徒さん　第3弾♪ 中野寿彦さんのインタビュー記事有！

発行所：乗円寺　金沢市石引１丁目4-20　印刷協力：川場印刷　TEL076-221-3421　Fax076-221-3449　E-mail:info@jouenji.net
ご要望、ご感想はお気軽にお問合せください。寺報、発送希望がございましたらお気軽に。乗円寺　ホームページ！http://jouenji.net

第3弾！
乗円寺の門徒さん！

人生の始まりと転機に、お寺とご縁。
社会復帰支援に全力を傾けて。

インタビュー：中野寿彦さん
聞き手・記事：中田有博さん

中野寿彦さん
更正保護法人徳風苑
親和寮勤務。
1956年1月、長崎県佐世保市生まれ。小中高は名古屋で育つ。事務機メーカーに就職し、サービスおよび営業を担当。営業の管理職時代、金沢に家を購入するが単身赴任続き。退職した2012年から金沢で暮らす。

――寿彦さんというお名前は、お寺と関係があるそうですね。

以前、自分の名前のいわれを母に尋ねたことがあります。すると、名前の候補は「寿彦」と「源治」があり、「決めかねてお坊さんに選んでもらった」とのこと。あれは20歳頃で、『ルーツ』という映画を観て感動し、私も自分のことをちゃんと知っておこうと思い立ったのかもしれません。

出身は、長崎県佐世保。父は炭坑で働いていましたが、弟が生まれて間もなく廃坑になり、名古屋へ移ることになりました。両親の生活が落ち着くまで私は祖父母に、弟は伯父夫婦に育てられ、弟が小学校1年生になった年に一家がそろいました。

父は新しい仕事でのストレスを家に持ち込んでいたのか、両親の仲はあまり良くなく、楽しい思い出というものはありません。少しでも早く家を出たいと思うようになり、工業高校卒業後、「転勤があること」して、人情味があり、楽しかったですね。

転勤はほぼ3年ごと。中部地方の県庁所在地を転々としました。営業部門に異動してからも、お客様と接することに楽しさを感じ、充実した気持ちで働いていました。

しかし、リーマン・ショック後、会社が新設した「コストセンター」という名の人員整理部門を任されることになりました。数字だけを評価の基準にして社員に辞めてもらう、気の重い仕事でした。

2011年、東日本大震災が発生。偶然いた東京の本社でその揺れに遭遇しました。さらに、妻の母が病に倒れて介護が必要になり、仕事に楽しさを感じられなくなっていた私は退社を決意。翌年春から金沢の家で妻、娘と暮らすようになりました。

まず、パソコンを習得しようと「樂」を訪れ、面談をした時に福田さんと知り合ったことが、現在の仕事につながっているわけです。

――「いのち」について初めて考えたのは、いつ頃ですか。

2013年に大きな出来事が重なったのがきっかけでしょうか。

その年、1月に私の父が亡くなりました。病室で、父の伸びていたひげを電気かみそりで剃ってあげていた時、急に父の呼吸が止まりました。「もういいよ」という声が聞こえた気がしました。私が来るのを待っていたのかもしれません。

その何年か前、伯父が亡くなった時も、一人で霊安室に入った途端、ろうそくの炎が揺れ、「寿彦、がんばれよ」と声がしました。弟が幼い頃に世話になった伯父ですが、私のことも気にかけてくれていたようです。

父の没後、8月に妻の母が亡くなりました。2018年3月には私が体調を崩して緊急入院する事態も起こり、「終活」や、「残りの人生」を意識するようになりました。

――そしていま、更正保護法人徳風苑親和寮で働いていらっしゃるのですね。

はい、社会貢献につながる仕事をしたいと考え、2018年春からお手伝いしています。18歳から70代までの、刑務所を仮釈放になった人や起訴猶予になった人の社会復帰をサポートするため、寮で生活を共にしながら相談業務、事務処理、面接、宿直、ハローワークへの付き添いなどをしています。いろいろと難しさはあります。社会の偏見は根強いですし、協力雇用主も少ないです。

「10人にひとり更正できればいい」と言われますが、せっかく生まれて来た命ですから、大切に生きてほしいもの。一人ひとりを見つめて更正プログラムを考え、とことん話を聴きます。6回刑務所に入った方が改心し、建築仕事の日銭を貯めてアパートを借り、ついに自立した時は本当にうれしかったです。変わるきっかけを作ってあげられたことに、私は喜びを感じます。

今後、感性を磨くプログラムに取り組みたいと計画しています。生きることは感動すること。心を開かない彼らの生き方が少しでも変わるのを見ることが、これからの私の生きがいになるのではないかと思います。好きな言葉は「前のめりに死ね」。使命に向かって、前進しつづけたいと思います。

老僧の独り言
～私の大切にしている言葉「倶会一処」～

野田山や卯辰山の墓地へ参りますと、墓の正面に 南無阿弥陀仏」の六字名号ではなく「倶会一処(くえいっしょ)」または「倶会」と彫ったお墓をよく眼にします。これは佛説阿弥陀経の中程に、佛様のお言葉としてお示し下さった大切な、み教えの一節です。倶会一処のすぐ前のお言葉が 諸上善人(しょうじょうぜんにん)」。意味はモロモロの上善人(先に浄土へ参られた有縁の方々と一処)と同じところ、お浄土で必ず会うことが出来ると教えてくださったのです。これは専門用語では本願の呼び声と申しています。

今、生きているこの世はあくまでも「仮」の世界であり、倶会一処の世界こそが真実の世界であって、再び死ぬ(滅する)ことのない永遠に生かされる土(クニ)、即ち浄土なのです。そして今の娑婆の生活(寿命)が尽きたならば、直ちにそこへ参れと教え、呼びかけて下さったのです。昔の人達はこれを「親様の呼び声」と称して朝夕心底から合掌し頂いてきた教えです。親様の呼び声＝即ち如来の本願なのです。(本願とは佛・菩薩が一切の衆生(私達)を一人残さず救うと誓われた真実の願いのことです。)

「聴いとるか！聴こえるか？解るかな。解るかな？」と一瞬たりとも絶えることなく、呼びかけ給う佛様の呼び声の中にあって、一人耳を塞ぎ、横を向いて聴くまいと頑張る者。何とそれはこの私です。

呼び声を確かに聴くということが、生かされている事実なのです。「倶会一処」それは誠に身に沁みる教えなのです。合掌

庫裏改築のため永い間、駐車場等ご迷惑をおかけしましたが、やっと完工いたしました。ご協力ありがとうございました。